

瀬戸内市立美術館

造形作家 玉田多紀 海のいきもの ダンボール物語より

開催期間：2024年 7月13日（土）～2024年 9月 1日（日）



【企画展の内容・目的】

- 「海のいきもの」をモチーフとしたダンボールアートを展示することで、優れた美術作品に触れる機会を創出するとともに、海の環境問題について考える機会を創出します。
- 本年は瀬戸内海国立公園指定90周年の記念の年であり、瀬戸内海の絶滅危惧種であるスナメリや市内の漁協によるアマモの育成活動に関する展示を通して、市内周辺の海の環境について理解を深めてもらいます。
- 海をテーマにしたフリーワークショップでは、作品を作ることによって楽しさを感じ、その作品を参加型で自ら展示することで、豊かな海の空間を協同して作り上げていく喜びにつなげます。

1. 企画展示の内容

- 開催期間：2024年7月13日（土）～2024年9月1日（日）
- 開催場所：瀬戸内市立美術館
- 入場者数：8,316人



瀬戸内市立美術館 外観



企画展会場 入口



サカナたちの物語



サカナたちの物語



カエルの物語



瀬戸内の物語

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。



親子の物語



ウミウシの物語



作家の物語



皆さんの物語

本展は、多様な海の生物の様子をダンボールアートによる空間展示（インスタレーション）で表現しており、来館者がこれらの大型のダンボールアート作品を鑑賞することで、作品のもつ迫力や美しさ、素材の持つ面白さを感じるとともに、あらためて海の生物たちの生きる姿や取り巻く環境に興味を持ってもらいます。さらに、海の問題を肌感覚で直に感じ取り、捨てたゴミが海にたどり着くことで海のいきものの命を危険にさらしていることを知ってもらい、海を汚さないことへの意識向上に繋げるようにしています。

また、美術館の目の前に広がる瀬戸内海に生息する絶滅危惧種であるスナメリを、本展のための新作として展示することで注目してもらうことで、これから人間と海の生物たちがどのように共存していくべきなのかを考えるきっかけ作りを意識しています。

展示構成については、7つの物語によって出来上がっています。多様な物語を体験してもらうことにより、作家が感じてもらいたいテーマや問題について学びや気づきを得ることができるようになっていきます。

まず入り口から入ると、目に入るのは天井高4メートルの展示室に展開される「サカナたちの物語」です。まるで海の中にいるようなブルーライトの中に、5m以上の巨大なクジラが展示室の真ん中に佇んでおり、その上を人間によって鑑賞用にされたサカナたちが泳いでいます。海のいきものと淡水魚と一緒に泳ぐこの空間は、河も海も一つに繋がっているということを意味しています。

続いて隣の展示室に移動すると、「カエルの物語」が展開されています。2m近い巨大なカエルが寝そべるこの物語は、わたしたちも実際にカエルになってみたいという参加型の

作品です。設置されたステージで、目の前のカエル作品のようにポーズをとって楽しめます。

「瀬戸内の物語」は、今回の展覧会の新作となっています。瀬戸内海の生態系の頂点にありながらも絶滅危惧種であるイルカの仲間であるスナメリが、海を豊かにするゆりかごとも言われる海藻のアマモの中でゆったりと泳ぐ姿は、作家が思い描く理想な瀬戸内海の姿を表現しています。

そして、過酷な状況下で子育てを行うペンギンの姿を表現した「親子の物語」・「ウミウシの物語」へと構成が続いていきます。

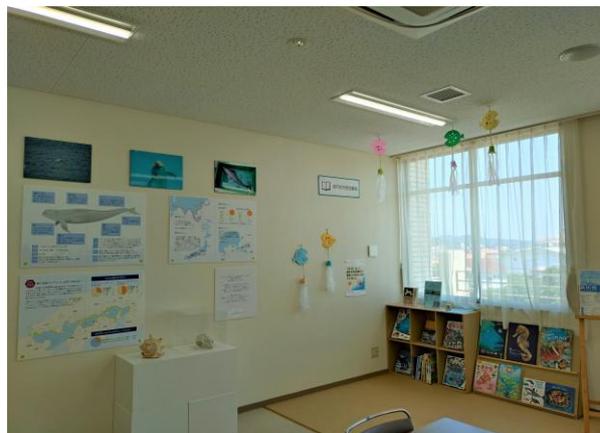
ひとつ下の階に降りると、作家自身が作品を制作する際に作ったミニチュア粘土模型や、スケッチなどを展示している「作家の物語」があります。

さらに、フリーワークショップ形式で来館者が自発的に制作をしてもらうアトリエコーナーなどを「皆さんの物語」として、会期が進むほどに豊かになっていく海の姿を展示室内に表現しています。

こうした7つのダンボール物語を通して、来館者には海についての理解を促進しています



皆さんの物語（みんなのアトリエ）では、フリーワークショップを楽しむことができます。展示室の中央には、海の守り神とされるシードラゴンを配置し、海の中にいるようなアトリエで、親と子、祖父母と孫など、多様な世代が交流を深めながら一緒に制作と学びの時間を共有することの大切さを実感していただけるようになっています。





展示構成のなかには、海に関わる取り組みを紹介する学びの部屋を設けています。

こちらでは、市内の中学校が取り組む海洋汚染に関する学習活動や、水産資源を活用する漁業協同組合によるアマモ育成活動のほか、近海に生息する絶滅危惧のスナメリを見守る会の活動内容についてパネル等で展示を行うことで、海を取り巻く環境がどのような問題を抱えているのか、そのことに対してどのような活動を実施しているのか、それらの取り組みについて興味を持っていただけるようになっています。

また、市内の図書館と連携をすることで、学びの部屋の一角に海に関する書籍や図鑑の設置を行うとともに、図書館内では、企画展に合わせて、海に関する絵本の「おはなし会」を行うことで、海に関する興味を、より幅広い方々に対して広げるようにしています。

【来館者の声】

- 海の豊かさを守りたいと思った。現在の海の深刻な問題の解決に少しでも協力したい。
- 海のいきものは、与えられた環境で生きており、別の環境を選ぶことはできない。人間が勝手にその生態を脅かしてはいけない。
- 廃棄しているプレジャーボートの処理に関心があります。
- 川から海にゴミが流れていかないよう気を付けようと思いました。
- 美しい海を残すため、上流からもキレイを心掛けたい。ステキな作品をいろいろなところで展示して欲しいです。子どものワークショップいいと思いました。
- それぞれがユニークな生きものが太古からこの海に住んで生命をつないでいるということを改めて感心しました。玉田さんの眼差しがその輝き個性を受け取って伝えてくれたような。ダンボールという素材でこんな表現ができることにも驚かされました。今後の作品もまた観たいです。良い展覧会に感謝します。

2. 関連事業の内容

■みんなで豊かな海を作ろう！

【開催日時】2024年7月13日(土)～9月1日(日) 9:30～16:30

【開催場所】瀬戸内市立美術館 3階ギャラリー

【参加者数】4,500名

【目標・内容】

- 3階のギャラリーを「皆さんの物語」という参加型ワークショップ会場の「みんなのアトリエ」にすることで、作品や展示に刺激を受けた来館者が想いをアウトプットするための場として、海のいきものなどをダンボールで自由に制作し、アトリエの壁に描かれた市内の海や山の風景に自らの手で貼って展示をすることで、理想の豊かな海を協同作業によって創り上げていきます。
- 1匹のサカナの展示から始まり、会期が終わるころには数えきれないサカナたちに覆われた豊かな海を創り出すことで、海を守る意識を高めてもらうプログラムです。



子どもたちだけではなく、すべての来館者に分け隔てなく参加をしてもらうことで、制作する楽しさと、豊かな海を創り上げていく意欲を多くの人に高めていただきます。

なお、サカナが増えていく過程については、美術館 SNS で継続的に紹介していくことで、自分が参加した後にも興味を持続できるようになっています。

子どもを中心に賑わいをみせており、想像と工夫をこらした多様な生物たちが展示壁面を埋めつくしました。また、企画展の滞在時間の延伸に大きく寄与しています。

最初は、1 匹のサカナからはじまった皆さんの海が、会期終了時には、貼り付ける余地がない程にたくさんの生きものたちであふれかえりました。こうした様子の展示は、多くの来館者に自分たちの守るべき海の姿を視覚で訴えることが出来たと思います。

また、親子で制作を取り組むうえで、いきもの達の詳しい生態系を学ぶことや制作の仕方など世代間の対話が弾むことで、満足度の向上に結び付いたと考えられます。

【来館者の声】

○娘は、工作が好きなので最後の制作コーナーはかなり楽しめました。海の大切さもとても良く伝わりました。

○子供たちの発想、個性的でした。何かに興味を持つこと教育にとってとても望ましいことで、このような機会を今後も作ってください。

○夏休みの時期にぴったりのイベントです。展示品の所々に子供の参加の部分もあり子供が主体的に関わっていけることがよかったです。

○夏休みに子供が楽しめる美術鑑賞ができ、フリーワークショップでも自分も制作が出来、また海の大切さも学ぶことにもチャレンジできてよかった。

○生きものの中に心音が聞こえる仕掛けがありびっくり！ワークショップに夢中で作っている子どもの姿をみることができました！子どもの想像力がすごい！！

■玉田多紀のギャラリークルーズ

【開催日時】2024年 7月15日(月) 13:00～15:00

【開催場所】瀬戸内市立美術館 4・3階展示室・ギャラリー

【参加者数】80名

【目標・内容】

- 展覧会のテーマである海の環境問題・海の絶滅危惧種について、作家自身の生の言葉で配置された作品の解説と想いを伝えることで、参加者に対して強いメッセージを投げかけ、参加者の意識と行動変容を促す取り組みになっています。
- また開催日の7月15日は「海の日」でもあるので、この日にイベントを実施することで話題性や注目度が高まるとともに、あらためて身近な海について学ぶことへの意識を高めていただくプログラムになっています。



ギャラリートーク参加の様子



ギャラリートーク参加の様子



ギャラリートーク参加の様子

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

作家本人が来館するという事で、当日は多くの参加者で賑わいました。

展示に対する想い、作品への向き合い方、ダンボールという素材についての工夫など、作家本人でなければ聞くことができない話の数々に、参加者は大きな興味と関心を寄せている様子でした。

この展覧会では、海のいきものに焦点を当てているため、作家の海の環境に対する思いや、幼少期に遊んで過ごした海の様子など幅広い年齢層にも分かり易い内容でギャラリークルーズは大変好評でした。海の日に開催することで、話題性も高まったと思います。

解説を作家自身の言葉ですることによって、作家の海のいきものに対する考えを強いメッセージ性を持ってストレートに参加者に届けるという試みは、参加者の反応を見ている限りですが想定上に成功しているように感じられました。

【来館者の声】

- ギャラリークルーズに参加をして、海を守っていきたいと思った。
- たくさんの海のいきものについて知ることができてよかった。(9歳)
- 「瀬戸内の物語」での作家の説明を聞いて、身近な海だからこそ、もっと学びたいし守りたいと思った。
- ギャラリートークを聞いて、いろんな生きものが住んでいて、食料やいろんなことを分担していることを感じたり学んだ。(8歳)
- 作家の生の声が聞けて作品に対する思いなどを理解することができ、身近な海を守っていくことの大切さを実感した。

■玉田多紀のダンボールワークショップ

【開催日時】2024年 8月10日(土) 13:00 ~ 15:00

【開催場所】瀬戸内市立美術館3階研修室

【参加者数】20名

【目標・内容】

- 作家玉田多紀を講師に、ダンボールを使ってより高度で立体的な海のいきものを制作すると同時に作品を鑑賞する大切さを伝えます。
- 一つの作品を創り上げていく上で、対象の海のいきものを詳しく観察をしながらじっくり制作した後に、作品を鑑賞することの大切さを意識してもらうことで、作り手の側目をもって今後の美術館での鑑賞につなげてもらいます。
- ワークショップのねらいとして、作家は、「参加者には造形技術以上に表現することの面白さを知ってもらう」ことを目標としています。



制作過程での説明の様子



制作過程での説明の様子



製作途中の作品



作品の鑑賞会の様子

※上記写真等は特別な許可を得て撮影されたものです。無断転載等はいけません。

作家本人が講師となり、フリーワークショップよりも高度なダンボールアートの制作が実施できるということもあり、事前予約もすぐに埋まってしまう人気ぶりでした。夏休み期間とあって参加者のほとんどが親子であり、作家の的確な指導のもとで、世代間で力を合わせて高度な立体作品を制作していきました。

制作過程で、作家からの説明を真剣に聞き実践をしていくことで、普段見慣れた一枚のダンボールから、みるみる立体の作品に仕上がっていく様子は、参加者にとっても驚きのものであったようです。また、作る作品のいきものの特徴をしっかりと捉えることが大切ということ指導で、参加者たちは熱心にその特徴を調べながら、調べた特徴を自身の制作物にどのように表現するべきなのか工夫しながら取り組んでいました。

本ワークショップは、制作をすること以上に表現することの面白さを知ってもらうというコンセプトがあります。制作後にすべての作品の鑑賞会及び作家による講評を行いました。選んだモチーフやテーマ、表現したかったもの、力を込めて作ったパーツなど、プロの作家目線で読み取って言語化してもらうという経験は、参加者にとって大きな美術体験になったことがわかりました。

作り手側の目をもって今後の美術館での鑑賞に繋げてもらいたいという作家の想いは十分に伝わったと思います。そのことは、参加者アンケートにより、全員から満足であったとの回答があったことから推測できるものでした。

【来館者の声】

- 先生が作品の良いところを見つけ、力を伸ばすことに注力
- 作成する生きものの特徴などが分かった。(11歳)
- 海のいきものについて、親しみを感じ海を大切にしたいと感じました。
- 普段よく捨てるダンボールが生まれ変わる過程が目の前で分かってすごく楽しかった。
- 作家の生の声が聞けて作品に対する思いなどを理解することができ、身近な海を守っていくことの大切さを実感した。
- 作品を作ることで、海にはたくさんの生きものがいてその特徴がそれぞれ違うことに気づけた。

【事業全体のまとめ】

本事業は、「海の学び」について、海のいきものをテーマにした大型ダンボールアートを空間展示（インスタレーション）により鑑賞する特別展及び参加型・体験型のワークショップ等により、より深い気づきと学びを得るための事業でした。

事業の成果として、若年層やファミリー層をターゲットとした夏休み期間の会期にあてた特別展としても、「海の学び」をテーマにした内容としても、目標数 8,000 人を上回る 12,916 人の来館及び高い満足度を得ることができたため、十分な成果を得ることができました。

来館者は、作品のもつ迫力や美しさ、素材の持つ面白さを感じるとともに、あらためて海の生物たちの生きる姿や取り巻く環境に興味を得たと考えられました。さらに、海の問題を肌感覚で直に感じ取り、捨てたゴミが海にたどり着くことで海のいきものの命を危険にさらしていることを知ってもらい、海を汚さないことへの意識向上に繋げることができたことも、実際に多くのアンケートからも読み取れました。

あわせて、参加型及び体験型のワークショップの積極的な開催や、地域団体等との広範な連携を図ることで、多様な角度から「海の学び」について伝えることができるとともに、当館の今後の運営に向けての連携・協力体制の構築に大きく寄与することができました。

今後は、本事業で得られた成果と共に、地域の学校・図書館・企業などと構築できた連携をさらに強化し、地域全体で当館を盛り上げ支える動きを生み出すことに励んでいきたいと思えます。それによって、地域の『海の環境』を守る活動を持続していくための核のひとつになれば良いと考えています。

3. 主な連携・協力先について

連携・協力先名称	連携・協力の内容
1. ウッドワン美術館	同時開催
2. 邑久町漁業協同組合	アマモ育成に関する展示パネル
3. 牛窓のスナメリを見守る会	スナメリに関する展示パネル
4. 岡山県立邑久高校	作家と共同展示作業
5. 瀬戸内市立牛窓中学校	放置艇に関する展示パネル
6. 瀬戸内市民図書館	学習の部屋にミニ図書館を設置
7. 瀬戸内市牛窓図書館	8月の特別ブース設置・おはなし会で紹介
8. 瀬戸内市長船図書館	8月の特別ブース設置・おはなし会で紹介

4. 主な広報結果について

掲載媒体名	見出し、掲載日
1 TSC テレビせとうち（テレビ）	「造形作家 玉田多紀 海のいきものダンボール物語より」2024.7.12
2. 岡山県立邑久高校 HP(WEB)	瀬戸内市立美術館コラボレーション企画 2024.7.24
3. 山陽新聞朝刊(新聞)	段ボールでクジラやスナメリを表現 2024.7.26
4. NHK 岡山（テレビ）	古くなったダンボールで海の生き物を表現した作品展 2024.7.28

5. RSK ラジまる（ラジオ）	「造形作家 玉田多紀 海のいきものダンボール物語より」2024.7.12
6. RSK 海と日本プロジェクト（テレビ）	「造形作家 玉田多紀 海のいきものダンボール物語より」2024.8.11
7. RNC 西日本放送（テレビ）	「海の生き物」段ボールアート展 瀬戸内市立美術館 2024.8.14
8. KSB 瀬戸内海放送（テレビ）	海の生き物を段ボールで再現した特別展 2024.8.14
9. 毎日新聞朝刊（新聞）	段ボール製の「海洋生物」を 2024.8.15

以上